

2018 全日本 F3 第 5 戦 第 6 戦
 富士スピードウェイ
 2018 年 7 月 7 日

予選

観客: 10,600 人

天候: 曇り時々雨

開幕戦から 4 連勝を飾っているカーナンバー36 の坪井 翔は、2018 年全日本 F3 選手権シリーズ第 5 戦、第 6 戦の予選において、両レース決勝に向けてポールポジションを獲得。カーナンバー37 の宮田 莉朋は、第 5 戦を 5 番手。第 6 戦を 4 番手グリッドからスタートする。



- 2 レースイベントの規定で、ベストタイムによって第 5 戦、セカンドベストタイムで第 6 戦のグリッドを決した。
- 曇り時々雨という難しいコンディションとなり、セッション開始とともに、各車がレインタイヤを装着してコースイン。
- 練習走行の時点から常にトップタイムをマークしていた坪井は、唯一 1 分 51 秒台のタイムを叩き出した。
- 坪井は、1 セット目のタイヤでアタックを終えてピットイン。雨が上がってコースコンディションがハーフウェット方向へ変化すると読んで、セッティングを変更。2 セット目のタイヤを装着してコースイン。しかし、再び、小雨が降り始めてしまい、ベストタイムを更新できなかった。結局、1 セット目のタイヤでマークしたタイムで両ポールポジションを獲得した。
- 宮田は、ウェットコンディションに苦戦していた。坪井と同じく、2 セット目のタイヤを装着して、セッティングを変更してコースイン。小雨が降り始める中、タイムを更新。宮田は、2 セット目のタイヤでマークしたタイムによって両レースのグリッドを獲得している。

Driver	Car No.	Qualify for 5	Qualify for 6
坪井 翔	36	P1 1:51.995	P1 1:51.998
宮田 莉朋	37	P5 1:52.645	P4 1:52.739

天候	曇りときどき 雨 / ウェット	
気温/路面温度	気温 23-23度C	路面 23-24度C

坪井 翔 (36 号車ドライバー)



「ウェットコンディションは絶対の自信がありましたから、1 セット目からライバルとの差を開くことができました。コースコンディションが良くなってきたので、少し車高を下げて 2 セット目のアタックを行ったのですが、雨が降りだしてしまっ、1 セット目のタイムを縮めることが出来ませんでした。1 セット目で 1 分 51 秒台のタイムを連続して出した結果、両レースともポール ポジションを獲得することができました。決勝のコンディションが気になります。レインならレイン。ドライならドライと、ハッキリとして欲しいです。不安定なのが一番嫌ですね」

宮田 莉朋 (37 号車ドライバー)



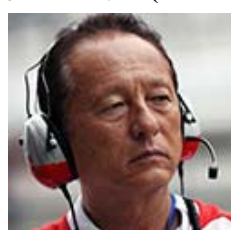
「ウェットコンディションの中、マシンのセッティングやドライビングを変えて、いろいろとトライをしているのですが、いまだに決め手が見つからなくて悩んでいるところです。何か見つければ、もう一段階、上がれると思うのですが、タイムアップできない原因が分からない状況なので苦しいですね。ドライなら坪井選手とも対等に戦えると思うので決勝は、ドライが良いですね」

吉武 聡 (エンジニア)



「ウェットコンディションの坪井選手の走りは、とても安定していて、落ち着いて見ていられる状況でした。予選の途中にセッティングを変更したのですが、思ったような状況にならず、裏目に出てしまいました。しかし、1 セット目に好タイムを連続して出してくれたので、ポール ポジションが取れました。宮田選手は、現状、決め手が見つからない状況です。ドライコンディションなら、高いレベルなのですが、経験値も 影響していると思われます」

関谷 正徳 (チーム監督)



「坪井選手は、ウェットコンディションにおいても自信を持ってタイムを出していますね。とても安定しています。まずは、連勝記録の更新に向けて、良い予選の走りでした。宮田選手は、いま、ウェットコンディションで自分の走りが見つけられていない状況ですね。もう一つ上の段階へ進むためには、自らの力で打開して、ウェットでも、坪井とポールポジションを争うようになって欲しいです」

2018 全日本 F3 第 5 戦 第 6 戦
 富士スピードウェイ
 2018 年 7 月 8 日(日)

決勝

観客: 20,800 人 天候: 曇り/晴れ時々曇り

2018 年 全日本 F3 選手権シリーズ第 5 戦は、坪井 翔、第 6 戦においては、宮田莉朋が優勝。宮田は、F3 参戦 2 年目で初優勝を飾った。坪井の開幕戦からの連勝は、【5】でストップした。



- 第 5 戦でポールポジションからスタートした坪井は、トップポジションを維持し、2 位以下に大差をつけてゴール。連勝を 5 へ伸ばした。
- 宮田は、スタートから順位をアップするアグレッシブな展開を見せて 4 位フィニッシュしたが、他車をパスした際に走路外で追い越しをしたと判断されて、リザルトに対して 30 秒のペナルティを科せられて 8 位に終わった。
- 第 6 戦では、坪井がスタートで痛恨のエンジンストール。対して宮田は、予選 4 番手から好スタートを切って、順位をアップ。
- 宮田は、3 周目に 3 位。5 周目に 2 位、そして、13 周目に待望のトップを奪う。終盤、順位を挽回してきた坪井に迫られたが、落ち着いてチェッカーを受け、全日本 F3 初優勝を飾った。

Driver	Car No.	Round 5 /Fastest Lap	Round 6 /Fastest Lap
坪井 翔	36	P1 1:35.109	P2 1:35.098
宮田 莉朋	37	P8 1:35.437	P1 1:35.399
天候	曇り/ドライ 曇りときどき 晴れ/ドライ		
気温/路面温度	気温 25-25/27-27度C		路面 28-28/33-33度C



坪井 翔 (36 号車ドライバー)

「第 5 戦のスタートは、あまり良くなかったのですが、なんとかトップをキープして 2 位以下を引き離すことができました。しかし、ファステストラップを取れなかったのは残念でしたね。そして、第 6 戦のスタートでは、前戦のような失敗をしないように、ややエンジン回転を抑え気味にしてクラッチミートしたのですが、エンジンをストールさせてしまいました。大きく後退したのですが、マシンの調子は良かったし、レース距離が長かったので気持ちを落ち着けて順位を挽回していき、なんとか 2 位まで上がったのは良かったのですが、エンジンストールが悔やまれます。そして連勝ストップも残念です。また、連勝できるように頑張ります」

宮田 莉朋 (37 号車ドライバー)

「ウエットコンディションでは、まだまだ速さを示せなかったのですが、ドライなら自信があったので、第 5 戦では、積極的にプッシュしました。第 6 戦のスタートは、一旦 3 位に上がったのですが 1 周目は、4 位。前を走る 1 台がストップしたのはラッキーとしても、その後、着実に順位を上げてトップに立てました。後ろから坪井選手が追ってきているのはわかっていました。最後は、坪井選手を突き放すことができ、これが大きな自信になりました。初優勝できて嬉しいです。しかし、ウエットでの課題がまだあります。これからも頑張って、どんなコンディションでも速く走れるように努力します」

吉武 聡 (エンジニア)

「まずは、両レースでチームとして優勝できたことはよかったです。ポールポジションを取りながらスタートでエンジンストールをさせてしまって勝てなかった坪井選手は、連勝が止まる大きなミスでした。宮田選手の初優勝は、パッシングも落ち着いていたし、良いレースでしたね。これを今後も続けられれば、坪井選手の良いライバルになるのではないのでしょうか」

関谷 正徳 (チーム監督)

「トムスとしての開幕戦からの連勝は続きましたが、坪井個人の連勝はストップ。それを宮田がフォローしてくれた富士のレースでしたね。坪井のエンジンストールは、精神的なものなのか、メカニカル面のものなのか。もし、慢心であったのならもう一度気を引き締めてもらいたいですね。宮田の初優勝は、素晴らしかった。これからもこの調子で頑張ってください」

※次戦は、7 月 28-29 日に、岡山県の岡山国際サーキットにおいて、シリーズ第 7 戦、第 8 戦、第 9 戦の 3 レースが開催されます。